

青梅上成木ふれあいの森

活動地域内の植生と特定植物のモニタリング調査記録 VII

1. 実施日 平成 27 年 10 月 19 日

2. 観察ルート 里仁会館～都道 202 号～常盤林道～大滝～イラクサの道～サエズリの谷～サエズリの道～ワープ新道～丸紅看板広場～ミズナラの道～スマレの道～リンドウ坂～アジサイの道～酒沢出合い（大滝作業道口）～常盤林道～都道 202 号～里仁会館

A. 里仁会館～常盤橋（都道 202 号沿い）

- **アメリカセンダングサ（亜米利加梅檀草）** キク科センダングサ属の 1 年草 北米原産の帰化植物で山野より人里近くに多く自生している。
- **コセンダングサ（小梅檀草）** キク科センダングサ属の 1 年草 世界各地に広く分布する帰化植物で、これも山野より人里近くに多く自生し、アメリカセンダングサとともに都道 202 号沿いの所々で見られる。
- **ママコノシリヌグイ（継子の尻拭い）** タデ科タデ属の 1 年草 ひどい名前が付けられているがピンクの花が可愛らしい。活動エリア内ではミゾソバに比べ自生数が少ない。
- **白花のミゾソバ（溝蕎麦）** タデ科タデ属の 1 年草 都道 202 号から常盤林道沿いにかけて、淡紅色のミゾソバに混じて白花のミゾソバも所々で見られる。



アメリカセンダングサ



コセンダングサ



ママコノシリヌグイ



白花のミゾソバ

- キク科のヨメナ属あるいはシオン属と思われる野菊の花が都道 202 号から常盤林道沿いの所々で見られるが、名前の同定は難しい。
- **シュウカイドウ（秋海棠）** シュウカイドウ科シュウカイドウ属の多年草 夏から都道 202 号から常盤林道沿いをきれいに彩っていたが、花はそろそろ終わりで実を付けはじめている。
- **マルバウツギ（丸葉空木）** ユキノシタ科ウツギ属 春から初夏にかけて白い花を付けていたが、秋になり小さい特徴的な実をたくさん付けている。実が同じ仲間のウツギより少し小さい。



シュウカイドウの実



マルバウツギの実

- ・前回9月の観察で里仁会館近くの都道202号から常磐林道沿いで少だけ見られたノハラアザミ（キク科）が今回は里仁会館前の斜面高所で群生状態で咲いているのが見られた。
- ・毎年都道202号沿いの各所で見られたヤクシソウ（キク科）は、今年は自生数が少ないように思われる。
- ・都道202号から常磐林道沿いにかけて、この季節にはたくさんのミズヒキ、イヌタデ、ハナタデなどタデ科の植物が見られる。
- ・都道202号から常磐林道沿いの各所で見られたツリフネソウ（ツリフネソウ科）の花もそろそろ終わりだが、咲き残りがまだ所々で見られる。

B. 常盤橋～大滝（常盤林道沿い）

- ・シラヤマギク（白山菊）キク科シオン属の多年草 人里近くより山野に自生する野菊で、舌状花が少なく花弁がまばらに見えるのが特徴で、粗野な感じがすることからヨメナに対して別名ムコナとも呼ばれている。常盤林道沿いでは自生数が少ない。
- ・オトギリソウ（弟切草）オトギリソウ科オトギリソウ属の多年草 里仁会館近く、都道202号や常盤林道沿いの所々で見られたが、今はたくさんの実を付けている。
- ・モミジガサ（紅葉笠）キク科コウモリソウ属の多年草 活動エリア内の各所で見られるモミジガサは紫色を帯びた白い頭花が開きはじめていた。



シラヤマギク



オトギリソウの実



モミジガサ

C. 大滝～イラクサの道～サエズリの谷～サエズリの道～ワープ新道～丸紅看板広場～ミズナラの道～スミレの道

- ・オクモミジハグマ（奥紅葉白熊）キク科モミジハグマ属の多年草 浅く掌状に切れ込んだ葉をモミジに譬えてこの名があり、茎の上部に付く白い花が特徴的。イラクサの道の入口の少し先、谷側斜面の岩肌には1株咲いているのを確認。
- ・ツルリンドウ（蔓竜胆）リンドウ科ツルリンドウ属で蔓性の多年草 イラクサの道入口の少し先、オクモミジハグマとは反対側の右手山側斜面のモニタリングポイント①のツルリンドウは、前回の観察ではいくつか開花していたが、今回の観察では花が終わり、いくつか実が付いているのが確認された。
- ・イラクサの道の途中やサエズリの谷にはたくさんのミヤマタニソバ（タデ科）がまだ咲いているが、花はそろそろ終わり。
- ・サエズリの谷、ツリーハウス近くのトチバニンジン（ウコギ科）は前回9月の観察では花後に赤い実ができず枯れてしまっていたのが確認されたが、今回の観察では囲いの中は影も形もなしの状態。来年も同じ場所に芽が出て開花するか・・・
- ・サエズリの道～ワープ新道～丸紅看板広場～ミズナラの道にかけては、コアジサイ（ユキノシタ科）の幼木やアセビ（ツツジ科）、そしてフタリシズカ（センリョウ科）の花後の状態が多く見られ、この時期には開花状態の草花はまったく見られない。
- ・ヤマホトトギス（山杜鵑草）ユリ科ホトトギス属の多年草 前回の観察で自生を確認したスミレの道（日陰）のヤマホトトギスは花が終わり、実が付きはじめていた。



オクモミジハグマ



大滝近くのツルリンドウの実



ヤマホトトギスの実

- 前回9月の観察でスマレの道（日陰）でイヌコウジュあるいはヒメジソと思われる1株のシソ科の花の自生が確認され、今回の観察では同じものと思われる花がこの周辺にたくさん咲いているのが見られたが、葉の形や鋸歯数、毛の状態など微妙な違いがあるものの、名前の同定はやはり難しい。
- **センブリ（千振）** リンドウ科センブリ属の2年草 スマレの道（日向）のセンブリは前回9月の観察では蕾状態の株がいくつかあり、まだ当分開花が期待できない状態だったが、今回の観察ではすべての株が完全に開花しているのを確認。
- **タンナサワフタギ（耽羅沢蓋木）** ハイノキ科ハイノキ属の落葉小高木 スマレの道（日向）のモニタリングのセンブリとは反対側の谷側のタンナサワフタギは実が黒褐色に熟し、地面に落ちはじめています。



センブリ



タンナサワフタギの実

D. リンドウ坂～アジサイの道～瀬沢出合い（大滝作業道入口）

- リンドウ坂の東京都環境保全看板近くでのモニタリングポイント②のツルリンドウは生育が良好で、開花した株だけがそれぞれいくつかの赤い実を付けていた。
- **コウヤボウキ（高野箒）** キク科コウヤボウキ属の落葉小低木 高野山で使われていた箒ということからこの名があり、筒状花の先がクルリと反り返った花が特徴的。東京都環境保全看板から少し下のリンドウ坂の途中に開花状態のいくつかの自生を確認。
- **ブナサルノコシカケ（樵猿の腰掛）** サルノコシカケ科のキノコの仲間 アジサイの道に向うリンドウ坂の途中の倒木にたくさん付いていた。



リンドウ坂、東京都環境保全看板
近くのツルリンドウの実



コウヤボウキ



ブナサルノコシカケ

- ・アジサイの道に向かう途中のリンドウ坂のモニタリングポイント③のツルリンドウも生育は良好で、今回いくつかの花と赤い実を付けていた。
- ・カシワバハグマ (柏葉白熊) キク科コウヤボウキ属の多年草 葉が柏に似ており、ハグマ (白熊) とは仏具の払子に使う動物のヤクの毛のことで、花をそれに見立ててこの名がある。アジサイの道に入る手前、リンドウ坂の途中で咲いている 1 株の自生を確認。以前はリンドウ坂からアジサイの道にかけ多く見られたが、最近はあまり見られなくなった。
- ・アマチャヅル (甘茶蔓) ウリ科アマチャヅル属で雌雄異株の蔓性の多年草 前回の観察でアジサイの道の途中でたくさんのアマチャヅルの自生を確認したが、今回の観察では花が終わりいくつかの株が実を付けていた。熟すと黒っぽく変色する。
- ・ナギナタコウジュ (薙刀香薷) シソ科ナギナタコウジュ属の 1 年草 花が片側にだけ付いた花穂が少し反り返り、薙刀を思わせることからこの名がある。涸沢出合い周辺に群生状態での自生を確認。



カシワバハグマ



アマチャヅルの実



ナギナタコウジュ

E. 涸沢出合い (大滝作業道入口) ~大滝 (常盤林道沿い)

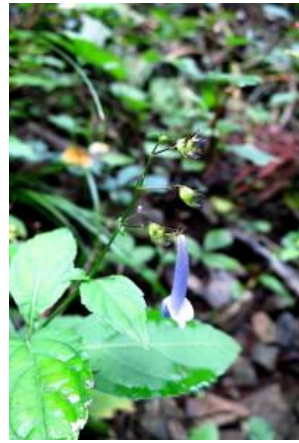
- ・シラネセンキュウ (白根川弓) セリ科シシウド属の多年草 日光の白根山で発見され、薬用植物のセンキュウに似ているのでこの名がある。常盤林道沿いの所々で見られる。
- ・ツリフネソウ (釣舟草) ツリフネソウ科ツリフネソウ属の 1 年草 活動エリア内では花はそろそろ終わりだが、常盤林道沿いで咲き残りに混じっていくつかのツリフネソウが実を付けている。
- ・セキヤノアキチョウジ (関屋の秋丁字) シソ科ヤマハッカ属の多年草 常盤林道沿いの所々でまだ多く見られるが、咲き残りの花に混じっていくつか実を付けはじめている。この辺りのセキヤノアキチョウジは年々少なくなっているように思われる。
- ・ウバユリ (姥百合) ユリ科ウバユリ属の球根植物の多年草 形が特徴的な実が秋になり淡褐色に変色してきた。常盤林道沿いばかりでなく、都道 202 号沿いでも見られる。
- ・涸沢、大滝間の成木川沿いの大きな岩の上に自生しているミツバベンケイソウ (ベンケイソウ科) の花はそろそろ終わり、少しずつ実が付きはじめている。



シラネセンキュウ



ツリフネソウの実



セキヤノアキチョウジの実



ウバユリの実

- アジサイの道ばかりでなく涸沢出合いから大滝間の常盤林道沿いで多く見られるマツカゼソウ（ミカン科）もほとんど花が終わり、たくさんの小さな実を付けている。
- 常盤林道沿いではゲンノショウコ（フウロソウ科）の花がまだ所々で見られる。
- 常盤林道沿いのヤマハッカ（シソ科）はまだ少し咲き残りが見られるが、花はそろそろ終わり。

3. 総括

- モニタリングを実施した3ヶ所のツルリンドウはそれぞれ花が終わり赤い実を付けているが、リンドウ坂の東京都環境保全看板近くのモニタリングポイント②のツルリンドウは生育の悪い株が多く、来年も引き続き自生状態を要観察。
- モニタリングを実施したスマレの道（日向）のセンブリは今回の観察でみな開花が確認されたが、来年以降、この周辺で自生数が増えるか引き続き要観察。
- 今年は年々進んでいる温暖化に加え気温の急変が著しく、秋に入ってから丁度この時期に見られる筈の花が終わりかけていたり、既に終わってしまった花も多く見られ、今年は夏以降の植物の生育が例年に比べ早いように感じられる。

編集 青梅上成木ふれあいの森 しぜん部